

あしたの、うちのちを。

——不妊に悩む夫婦に追い風。——

人口減少時代に入った日本の少子化対策の一環として、厚生労働省は今年度補正予算で不妊治療に対する助成額を引き上げ、男性に対する治療も助成対象にしました。1985年に近畿で初めて体外受精の出産に成功し、男性の不妊治療にも力を入れる兵庫医科大学病院 生殖医療センターの柴原浩章センター長に、生殖医療の現状とセンターの取り組みについてうかがいました。



兵庫医科大学病院

国立社会保障・人口問題研究所の2010年の調査では、「不妊を心配している人」(心配している人)を含む夫婦は31.1%、「不妊の検査や治療を受けたことがある」(受けている)を含む夫婦は16.4%という結果が出ています。不妊の原因にはどのようなものがあるのでしょうか？

柴原 女性側では排卵障害、黄体機能不全などの内分泌因子と、卵管閉塞や卵管周囲癒着による卵管因子がそれぞれ20〜30%。これに、男性が原因である場合を加えて三大因子と呼ばれています。1990年のWHO調査によると、女性側の原因が60〜70%、男性側の原因が30〜40%、原因不明が10〜15%とされてきました。現在の女性の晩婚化により、遅くとも35歳前後で不妊症がさらに増加していると考えられています。

検査や治療はどのようになっていますか？

柴原 卵巣機能が極端に低下していないか、血液検査で抗ミュラー管ホルモン(AMH)を測定します。これは、卵巣内に今後発育可能な卵子がどれくらい残っているかを示す指標です。この数値が検出感度以下の場合、妊娠を望むことは非常に厳しい場合が多いですが、ある程度卵巣機能が残っている場合は、排卵誘発剤の内服か注射で治療が可能です。黄体機能不全もホルモン治療で改善が望めます。卵管閉塞の場合は、体外受精が行われています。体外受精は体の負担はあまりなく、現在、我が国で出生する子どもの30人に1人は体外受精で生まれています。



兵庫医科大学 産科婦人科 主任教授 柴原浩章 生殖医療センター長

男性の不妊症専門医は全国で30人くらいしかいないそうですが、生殖医療センターの体制は？

柴原 日本生殖医学会認定の生殖医療専門医が、産婦人科に2名、泌尿器科に1名、日本不妊カウンセラー学会認定の不妊カウンセラーの資格を持つ看護師が3名、日本卵子学会認定の生殖医療胚培養士が1名、それ以外にも産婦人科医が5名、培養室の安全管理責任者と胚培養士が各1名おり、チーム医療・体制をとっています。また、院内各科の協力による合併症対策に取り組んでいます。抗がん剤治療などを受ける患者さんの精子や卵子、受精卵、卵巣を取り出して凍結保存したうえで、治療後に体内に戻す妊孕性(にんようせい)温存技術は全国で高いレベルと自負しています。

平均して何度の治療で妊娠するのでしょうか？

柴原 原因や年齢などにより異なります。必ずしも妊娠されるとは限りませんが、不妊外来をまったくの初診で受診し、妊娠される場合、まったくの自然妊娠は、受精しやすい時期に合わせて性交渉するタイミング法により20%、排卵誘発剤や人工授精で30%、体外受精・顕微授精などで50%くらいかと考えています。人工授精についてはデータがあり、5、6回目、すなわち約半年間の取り組みで40%程度の方が妊娠されています。



兵庫医科大学 産科婦人科医局員

原因や年齢などにより異なります。必ずしも妊娠されるとは限りませんが、不妊外来をまったくの初診で受診し、妊娠される場合、まったくの自然妊娠は、受精しやすい時期に合わせて性交渉するタイミング法により20%、排卵誘発剤や人工授精で30%、体外受精・顕微授精などで50%くらいかと考えています。人工授精についてはデータがあり、5、6回目、すなわち約半年間の取り組みで40%程度の方が妊娠されています。

柴原 最初に申し上げたように、加齢とともに妊娠しにくくなります。結婚年齢や出産年齢が上がっているだけに、こうした事実を中高生の方から正しく伝えることが大事だと思います。

柴原 不妊対策として、助成金の他にどんな対策が必要だとお考えですか？

柴原 最初にお知らせしたように、加齢とともに妊娠しにくくなります。結婚年齢や出産年齢が上がっているだけに、こうした事実を中高生の方から正しく伝えることが大事だと思います。



柴原 泌尿器科に男性不妊症の専門外来があり、毎月奇数週の土曜日に開設しています。まずは産婦人科で精液検査を受けていただき、低濃度(乏精子症)や低運動率(精子無力症)があれば、泌尿器科に紹介し、問診・診察・血液検査を行います。多くは原因不明の特異性で、ホルモン剤や漢方を処方する薬物療法を行っているか判定します。無精子症の場合は、精巣や精巣上体というところから精子を採取します。濃度が少ないことが多く、いったん凍結保存してから奥様から採卵し、顕微授精によ

柴原 病院に行く決断ができない人のために、当センターでは不妊学級という説明会を毎月1回、無級という説明会を毎月10時半〜12時(土曜日に開催)しています。また、兵庫健康増進課からの依頼を受けて1回の不妊総合相談の窓口を担当しています。

柴原 夫婦ともに戦ってきた「立場からこのうえなくうれしく思います。ただ、中には流産・

不妊治療助成金引き上げ
初回のみ上限を15万円から30万円に引き上げるとともに、男性に要因のある場合、夫から精子を採取する手術に、15万円を上限に助成する。体外受精でない妊娠が難しい夫婦で、世帯所得が730万円以下の条件がある。また、女性の支給対象を42歳までに引き上げた。2016年度当初予算案にも計上している。

兵庫医科大学 健康医学クリニック

人間ドック予約受付中

予約・お問い合わせ **0120-682-701** (直通)
URL: <http://www/hyo-med-kenshin.com/>

高度医療技術を有する 兵庫医科大学病院とのスピーディな連携

検査結果により、精密な検査が必要となった場合は、兵庫医科大学病院やご希望の医療機関へお繋ぎ致します。

レディースディの導入
土・日曜日も営業
午前中コースなら 午後から仕事に行けます！
充実したオプションコース
・循環器ドック・脳ドック・がん検診
・歯科口腔がん・PET検査

阪神武庫川駅西出口より徒歩5分

兵庫医科大学 健康医学クリニック
〒663-8137 兵庫県西宮市池開町3番24号
※当面の間は、第1.3.5土曜日、第1日曜日に営業します。